

文化プログラムの実施に向けた文化庁の取組について
～2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術立国
の実現のために～

平成27年11月26日
文 化 庁

文化プログラムとは

- ◎ オリンピック・パラリンピックは、スポーツと文化の祭典。**オリンピック憲章**において、開催国において、**文化イベントのプログラム（文化プログラムと総称。）を行うことが義務**とされている。2020年東京大会の立候補ファイルでも文化プログラムを実施することが、約束事となっている。
- ◎ 過去、多くのオリンピックにおいて、文化イベントが展開されたが、バルセロナ五輪（1992）からは、**直前の五輪後から4年間、文化プログラムが実施**されるようになり、ロンドン五輪（2012）では、**史上最大規模の文化プログラムが展開**された。（4年間で約18万件のイベント、約4300万人以上の参加等）

文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）

文化戦略

2020年東京大会は、我が国の文化財や伝統等の価値を世界に発信するとともに、文化芸術が生み出す社会への波及効果を生かして、諸課題を乗り越え、**成熟社会に適合した新たな社会モデルの構築**につなげていくまたとない機会。

文化プログラム等の機会を活用して、全国の自治体や芸術家等との連携の下、地域の文化を体験してもらうための取組を全国各地で実施する。
リオ大会（2016年）の終了後に、オリンピック・ムーブメントを国際的に高めるための取組を行い、文化プログラム実施に向けた機運の醸成を図る。

成長戦略

【経済財政運営と改革の基本方針2015】

東京大会を契機として、スポーツと文化芸術によるレガシー創出の観点から、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの国内外への展開、文化プログラムの推進、日本発の科学技術イノベーションの活用などを推進し、日本の魅力の発信を進める。

【日本再興戦略の改訂2015】

2016年リオデジャネイロ大会終了後から、全国各地で開催される文化プログラムの機会を活用し、世界に誇るべき有形・無形の文化財や、季節感一杯の祭り・花火、地域の伝統芸能、食を含む日本文化等の魅力を発信し、地方への誘客につなげる

地方創生

【まち・ひと・しごと創生基本方針2015】

・地域スポーツコミッション、日本遺産や文化プログラムなどの文化資源の活用を図る。

観光戦略

【観光立国実現に向けたアクションプログラム2015】

2016年リオデジャネイロ大会終了後から、全国各地で開催される文化プログラムの機会を活用し、世界に誇るべき有形・無形の文化財や、季節感一杯の祭り・花火、地域の伝統芸能、食を含む日本文化等の魅力を発信し、地方への誘客につなげる

文化戦略、成長戦略、地方創生、観光戦略において、文化プログラムを推進



趣旨

「文化芸術立国」の実現のために、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の機会を活かすとともに、それ以降も多様な文化芸術活動の発展や、文化財の着実な保存・活用を目指し、組織委員会、関係省庁等と連携して、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進。

【文化庁の取り組む文化プログラム「文化カプロジェクト(仮称)」の数値目標】

・20万件のイベント ・5万人のアーティスト ・5000万人の参加 ・訪日外国人旅行者数2000万人に貢献

文化庁が進める取組の三つの枠組み

1. 我が国のリーディングプロジェクトの推進

日本各地での文化芸術によるレガシー創出に向けた基盤的な取組を推進
(文化芸術プロデューサー人材等の育成、新たな文化×産業の拠点の形成、日本文化の再発見とその魅力の発信)

2. 国が地方公共団体、民間とタイアップした取組の推進

日本遺産、文化芸術による地域活性化・国際発信事業、劇場音楽堂等活性化事業等を支援

3. 民間、地方公共団体主体の取組を支援

地域の祭りをはじめ、我が国の多様な文化芸術を継承、発展させる全国津々浦々の文化芸術に関する取組を支援

28年度概算要求事項（主な事項）

1 リーディングプロジェクトの推進 1,308百万円

- ・官民一体となった文化プログラム推進体制の整備（広報PR、ポータルサイトなど）
- ・我が国のリーディングプロジェクト事業
（民需主体の新たな社会モデルの構築、世界に誇る日本文化の発信）

2 国が地方自治体、民間とタイアップした取組支援 14,859百万円

- ①国が主体の取組
 - ・メディア芸術祭等の国主催芸術祭の取組
 - ・文化財海外交流展等の国主催の展覧会の取組
- ②地方・民間が主体の取組
 - ・地域の魅力ある文化芸術の取組や担い手の育成等
 - ・芸術団体や劇場・音楽堂等によるトップレベルの舞台芸術活動等
 - ・芸術文化の世界への発信
 - ・地域の核となる美術館・博物館の取組

3 文化プログラム推進のための基盤整備 2,478百万円

- ①国立文化施設的环境整備
 - ・文化芸術活動、文化財等の多言語化対応
- ②多言語対応等による訪日外国人対応等（一部再掲）
 - ・バリアフリー、多言語対応、観覧環境の整備

リーディングプロジェクト

文化芸術によるレガシーを創出し、2020年以降の地方創生・地域活性化、訪日外国人数の増加等を実現。

【目指すべきレガシーの方向性】

- 地域観光をはじめ経済への波及効果の創出
- ものづくり、福祉や科学技術等、他分野との融合
- 地域の文化力の向上
- 公的支援モデルから民需主導の文化振興モデルへの転換
- 文化芸術による社会課題の解決
- 文化芸術のプロデューサー人材の育成・体制の構築

文化プロデューサー力のある人材をつくる

（例）優れた文化芸術プロデューサーをプロジェクトベースで育成するスクール事業 など

新たな「文化×産業」の拠点を形成

（例）国内外に伝統と現代の工芸の魅力を発信し産業化につなげる世界的な工芸拠点の形成 など

日本各地に潜在する日本文化を発信する

（例）全国の国公立美術館等がコンソーシアムを結成し、日本各地の国宝級のコレクションを集めた巡回展プロジェクト など